

書名：アスペルガー症候群の
ある子どものための新
キャリア教育

著者：本田秀夫，日戸由刈

出版社：金子書房

出版年月：2013年4月

総ページ数：143ページ

ISBN：9784760821686



推薦者

井上とも子

鳴門教育大学大学院教授
特別支援教育専攻

「アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育」は、アスペルガー症候群の子どもを持つ家族のために平易に書かれている。しかし、この143ページの小さな書籍は、アスペルガー症候群に関する専門書と十分言える。語りかけるような文面は、特別支援教育を学ぶ学生、アスペルガー症候群の子どもや家族を支援しようとする人たちに、支援の方向性を指し示し、多くの支援者と家族本人の連携によって、彼らの長きにわたる人生を安全なものにすることを提言している。本書は、3人の青年の事例を基に、アスペルガー症候群の人の陥りやすい人間関係のつまづきや、特性について、「なぜ、そうなるのか」をわかりやすく教えてくれる。このわかりやすさは、わが子をアスペルガー症候群であると認識した保護者より、「もし、そうだったらどうしよう」と悩んでいる保護者やこれから学ぼうとする学生に非常にありがたい。

関心を持ってもらいたい章は、彼らの最も大事な生涯にわたる課題を指摘している第7章である。著者らは、アスペルガー症候群の人が、安全な社会生活を安心して送るためには「心の健康」と「自律と社会性の獲得」と言い、それは、学業成績より優先するとまで述べている。保護者の多くがわが子の教育の目標を「高校に入ること」に置き、その先の長い人生に視線が注がれない実態がある。本書は、現実に向き合えない苦しさや不安が学齢期を過ぎ、就労の時期を迎えるころに「何かし忘れてきた感」にかかわることになる保護者に警鐘を鳴らしている。同時に大きな問題が起こらなくなったことにほっとしている学校の先生たちに、「それでは、彼らの人生が危うい」と教えてくれる書である。本書によって、「学齢期以降の長い人生に焦点を当てた将来設計を立てるべし」と、幼児期、学齢期からの就労に始まる社会自立に向けた支援を推奨し、あらゆる方面からの支援の在り方を提言しているところを強く推したい。何より本書は、周りの者が「黒子」として何をすべきかを述べると同時に、アスペルガー症候群の本人が、人生の主体者として何を学び、何をすべきかを示してくれる。

本書は「はじめに」から「あとがき」に至るまで、筆者の、アスペルガー症候群の人とその家族へのエールに満ち溢れている。そして、著者らの長きにわたる診療と療育、余暇活動支援等々の真摯な実践に根拠を置いて、「豊かな人生を歩んでほしい」という希望が語られている。ここにある多くの情報は、悩む保護者にはもちろんのこと、青年期を迎えたアスペルガー症候群の人とその家族にも、諦めずに再度、育て直すことや共に歩むことの大事さを教えてくれる。過ぎた時間は戻らずとも、取り落としてきた課題と支援を、できるところからやり直してみる価値はあること、周囲の支援者に頼ることで、できることがあることを気づかせてくれる、まさに「新キャリア教育」の専門書である。

